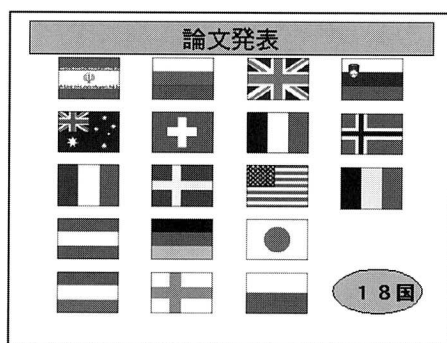


「国際聾史学会フランス大会」報告

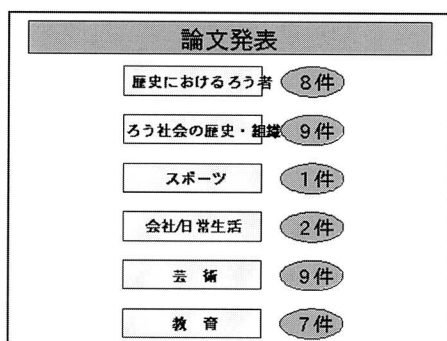
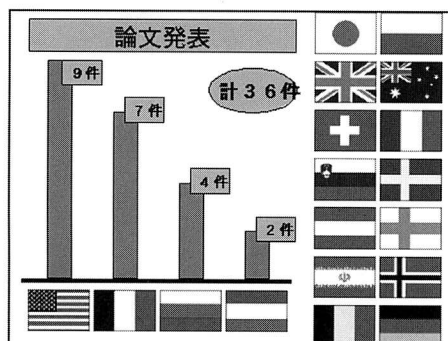
日本聾史学会 佐藤 聖

2003年7月1日から4日までの4日間、第5回国際聾史学会に当会会員の桜井強さん、私を含めて日本から4名参加しました。ろう者3名・聴者1名。全て男性。この大会は、3年毎に開催されています。大会の内容は、レクチャーとバリ散策、国立パリ聾学校見学でした。

世界各地より申し込まれたレクチャーが36件ありました。アメリカより9件、フランスより7件、ロシアより4件、オランダより2件、日本、イギリス、スイス、スロベニア、オーストリア、イラン、ベルギー、ポーランド、オーストラリア、イタリア、スウェーデン、フィンランド、ノルウェー、ドイツより各1件でした。アフリカ、南アメリカはありませんでした。男女比率が半々という割合でした。



テーマに分かれて、進行されていました。の中には、驚いたレクチャーも何件かありました。私はトップバッターで発表することは事前にわかっていたので、いろいろと準備して行きました。英訳の作業は本当に大変でした。発表テーマは「ろう者村長横尾義智」でした。発表上の不安を取り除くためにコンピュータ操作者、通訳者との打ち合わせをやり、いろいろとチェックしました。例えば、「パソコンとビデオプロジェクターがちゃんと動いているか?」「合図の送り方」等。開催国ではフランス語、フランス手話を主に使うので、意思疎通に時間を費やしてしまいました。私が国際手話で発表するとフランス手話がフランス語に通訳されて色々な言語に伝えられていく方法でした。わかりやすい・みやすい「手話」「写真・図解・イラスト」「英文」との組み合わせに努めたので、何とかして伝えられたと思っています。

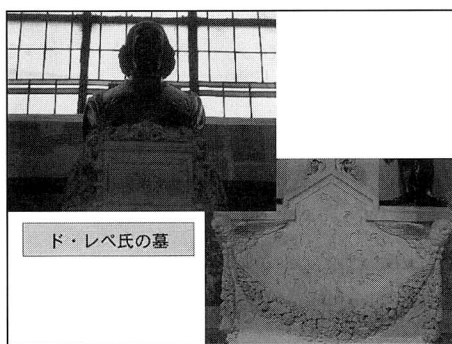


国立パリ聾学校は「世界最初の聾学校」として有名なので、見学できたことは感激でした。建物が古いけれども保存されていたことは印象的でした。校庭にド・レベ像が設置されておりました。設立時から古い文献と資料等を大切に保存してある図書室を見せてもらいました。ド・レベのゆかりの地・パリを散策しました。生家跡、墓等。他にオプションツアーが用意されていたのですが、都合により申込できませんでした。今後渡仏するときには是非行きたいと思います。

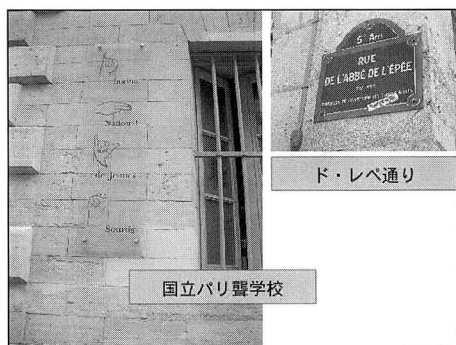
大会後、世界ろう者会議(カナダ)が控えていました。この現象は12年毎に起こることになります。両方のイベントに参加する人がいたようです。次回開催国はドイツに決まったようです。2006年に開催される予定。日本からの参加者や日本人による発表が増えることを期待しております。



ド・レベ氏の家跡

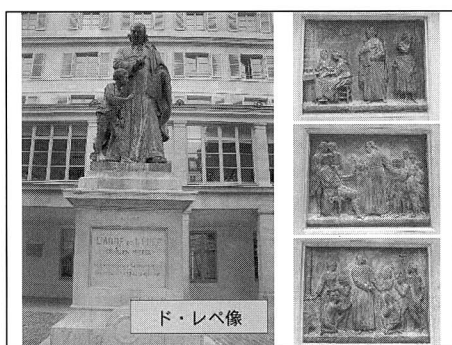


ド・レベ氏の墓



ド・レベ通り

国立パリ聾学校



ド・レベ像

第5回国際聾史学会 フランス大会の様子

スライドより



2003年6月30日
参加証の引き換え場



通訳

国際聾史学会理事の紹介

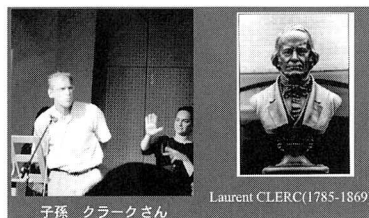
来賓挨拶

研究発表の風景



イラン人の研究発表

ロシア人の研究発表



子孫 クラークさん

Laurent CLERC(1785-1869)